

なりしも切開にて黄白色、纖維素性膿様の滲出物流出せり。腰椎穿刺を行ふに壓及腦脊髄液全く正常なりき。熱は弛張的に惡寒或は惡寒戰慄を伴ひて上昇を續け、加之に患側内頸靜脈の經過に沿ひ疼痛性索狀硬結現はれしたため頸靜脈炎を疑へり。時々頭痛睡眠障礙を訴へしも一般狀態侵されず。靜脈竇切開手術後19日にて平熱に復し、諸症狀消退し、入院後62日にて輕快退院せり。本例は靜脈竇炎、硬腦膜下膿瘍の何れが先行なりしや不明なるも、乳嘴蜂窠内の炎症機轉が漸次竇壁に波及し、壁部に壁在性血栓を生じ、炎症は更に頸靜脈に進行したるものと思ふ。硬腦膜下膿瘍は炎症比較的弱勢なりしたため限局性に留まり、一般軟腦膜炎に擴大せざりしものと認む。

16. 「ラヂウム」治療を施行せる食道癌に就て

大阪帝國大學醫學部布施内科教室

米 村 は な

「ラヂウム」治療を行へる一食道癌患者の經過及びその治療効果に就いて述べやうと思ひます。

17. 脂肪と栄養との關係(第四報)

東京女子醫學專門學校醫化學教室

三 神 美 和

1. 加熱亞麻仁油より脂酸を分離し、之を以て白鼠を飼養してその影響を觀察せり、又他方加熱亞麻仁油より石油「エーテル」不溶性の脂酸(酸化酸)を分離して之者による栄養上の影響を觀察し、何れも加熱亞麻仁油飼養と同様なる結果を得たるが故に、こゝに報告せんとす。

2. 亞麻仁油と同様に胡麻油を加熱し、この加熱胡麻油について栄養上の影響を檢索せるが故に、その成績について報告せんとす。

18. 食品の「エキス」分、食鹽並に「カリウム」「ナトリウム」含有量について

慶應義塾大學醫學部食養研究所

大 森 憲 太

心臓病並に腎臓病の食餌療法に當りて注意すべき事項のうち、問題になるものの一つは食品の「エキス」分、食鹽並に「カリウム」「ナトリウム」含有量である。われわれの